

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

教科に関する調査結果

【小学校】

『令和7年度』

平均正答率	国語	算数	理科
大口町	同等	同等	同等

『令和6年度』

平均正答率	国語	算数
大口町	やや下回る	やや上回る

『令和5年度』

平均正答率	国語	算数
大口町	やや下回る	同等

『令和4年度』

平均正答率	国語	算数	理科
大口町	同等	同等	同等

【中学校】

『令和 7 年度』

平均正答率	国語	数学	理科
大口町	同等	同等	同等

『令和 6 年度』

平均正答率	国語	数学
大口町	やや上回る	上回る

『令和 5 年度』

平均正答率	国語	数学	理科
大口町	同等	やや上回る	やや上回る

『令和 4 年度』

平均正答率	国語	数学	理科
大口町	上回る	上回る	上回る

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果を受けて

【今後の取組の方向性】

大口町では、「大口学びスタイル」「大口町家庭学習のスタンダード」「家庭での子育て10か条」を指針として、授業改善や家庭への呼びかけを行ってきています。その効果を分析し、今後の取組に生かしていくことが重要だと考えます。

今回の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、これまで注力してきた「大口学びスタイル」「大口町家庭学習のスタンダード」「家庭での子育て10か条」の理念に基づいた取組が実践されている状況がうかがえます。

今後も、以下の点に留意しつつ、継続や改善を図る必要があると思われます。

(1) 家庭生活に関して

- ① 望ましい生活習慣・生活環境
- ② 家庭での学習時間の確保と過ごし方

(2) 学校生活に関して

- ① 学習環境づくり
- ② 授業改善

(1) 家庭生活に関して

① 望ましい生活習慣・生活環境

「早寝・早起き・朝ごはん」と言われるように、食事や睡眠など規則正しい生活習慣は、心身の健やかな成長や学習意欲を高めるための根幹です。

・ 「朝食を毎日食べていますか」

→ 小学校 95%、中学校 92%（昨年度：小 95%・中 95%）

・ 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

→ 小学校 82%、中学校 78%（昨年度：小 83%・中 73%）

・ 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

→ 小学校 89%、中学校 87%（昨年度：小 91%・中 83%）

規則正しい生活は、心身の状態を良好に維持し、学習にも好影響を与えます。今後も、家庭での生活習慣づくりについて継続して啓発を行うとともに、自己肯定感を高めるような家庭での声かけや温かなコミュニケーションを重視していきます。

また、これらの項目に肯定的に回答した児童生徒は、教科の正答率も高い傾向が見られました。生活習慣の確立が学力にも直結することを意識し、学校と家庭が一体となって支援していくことが重要です。

② 家庭での学習時間の確保と過ごし方

基礎的・基本的な内容の習得には、授業における指導と同時に家庭学習の充実が不可欠です。

・ 「平日の家庭学習時間が目安（小：学年×10分、中：2時間）を満たしている」

→ 小学校 52%、中学校 27%（昨年度：小 54%・中 25%）

達成率が依然として低い傾向にあるため、学校・家庭が連携して、計画的な学習習慣の定着やメディア利用時間とのバランスの見直しを働きかけていきます。

家庭学習時間の確保は、学力の基盤をつくるとともに、学習への主体的な姿勢にもつながります。個々の生活リズムに応じた無理のない支援を継続していく必要があります。

(2) 学校生活に関して

① 学習環境づくり

学びに向かう力を支える土台づくりとして、安心して学べる環境づくりや人間関係づくりが大切です。

- ・ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」

→ 小学校 87%、中学校 89%（昨年度：小 83%・中 87%）

- ・ 「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人に相談できますか」

→ 小学校 67%、中学校 79%（昨年度：小 70%・中 77%）

いずれも全国や県と比べて同程度～やや高く、良好な傾向です。今後も、学級会などを通した話し合い活動や、相談しやすい雰囲気づくりを進めていきます。

子ども同士や教師との信頼関係の構築は、安心して学びに向かうための土台となります。人間関係づくりの視点を、日常的な学級経営や指導の中に位置付けていくことが求められます。

② 授業改善

- ・ 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

→ 小学校は全国・県と同程度、中学校はやや低め（昨年度も同傾向）

- ・ 「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いているか」

→ 小学校は全国・県と同程度～やや高い、中学校は低い傾向

中学校では、主体的に学ぶ姿勢や対話的な学びについて、今後さらに定着を図っていくことが期待されます。今後は話し合い活動を一層充実させ、ICT活用も「量」から「質」へと重点を移していきます。仲間との対話を通して学びを深める経験が、主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう、計画的な授業改善を進めていきます。